

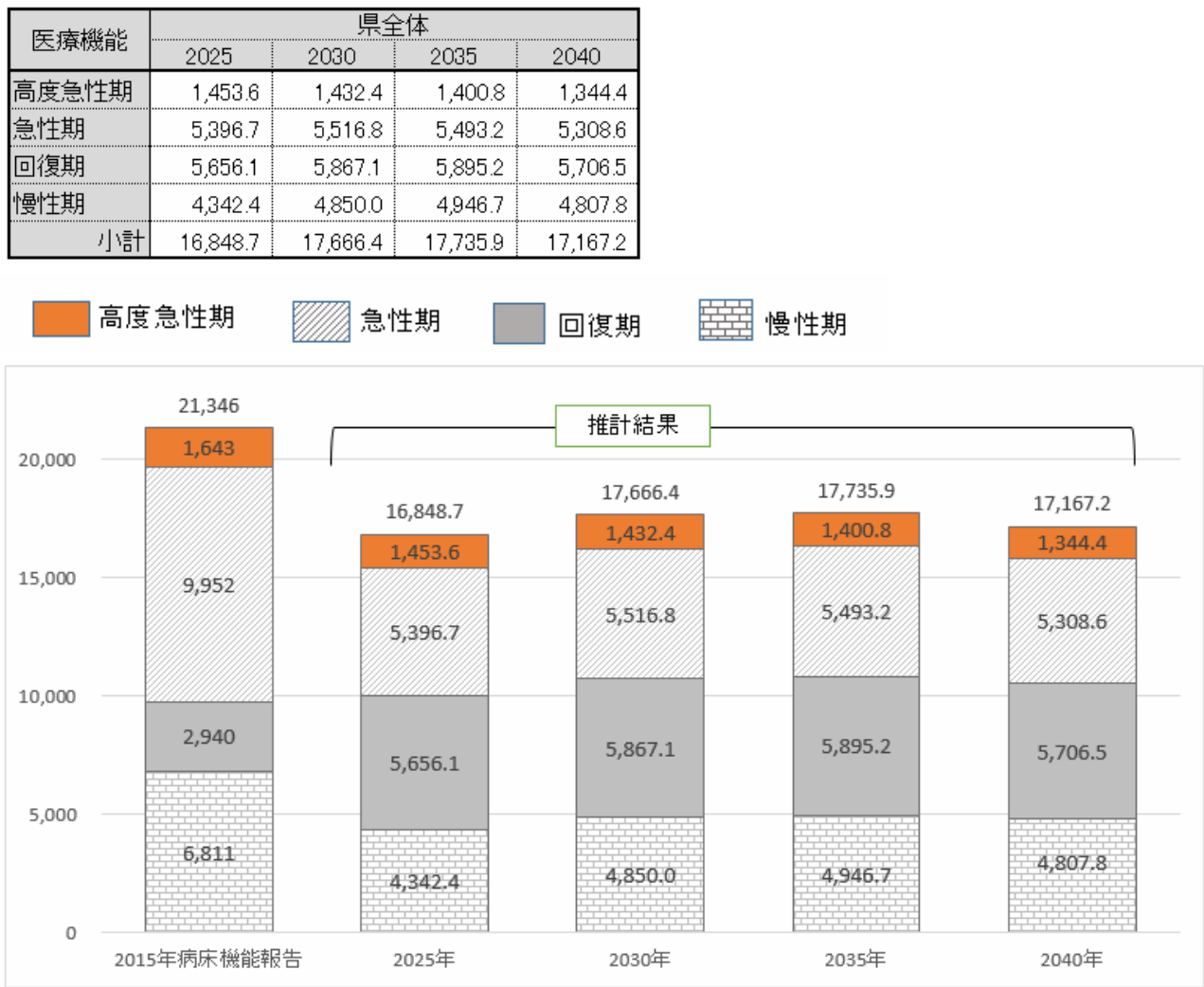
第 4 章 将来の必要病床数

(1) 将来の必要病床数

医療需要から機能ごとの必要病床数（医療機関所在地）を推計すると、2015 年（平成 27 年）の病床機能報告と比較して、全ての構想区域において、急性期病床が多く、回復期病床が不足しています。また、慢性期病床が多くなっています。

なお、必要病床数のピークは 2035 年（平成 47 年）となっており、2025 年と比較して 887 床の差があります。このため、2035 年に必要となる病床数を踏まえたうえで、あるべき姿の実現に取り組んでいく必要があります。

【図】将来の必要病床数（2040 年までの推移）

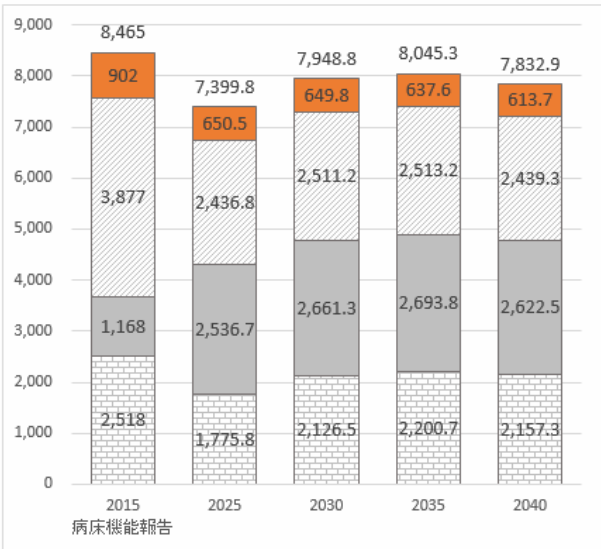


各構想区域別の推移をみると、本土の構想区域では、2025 年以降に病床数のピークを迎えますが、離島の構想区域では横ばいか減少に向かうと推計されています。

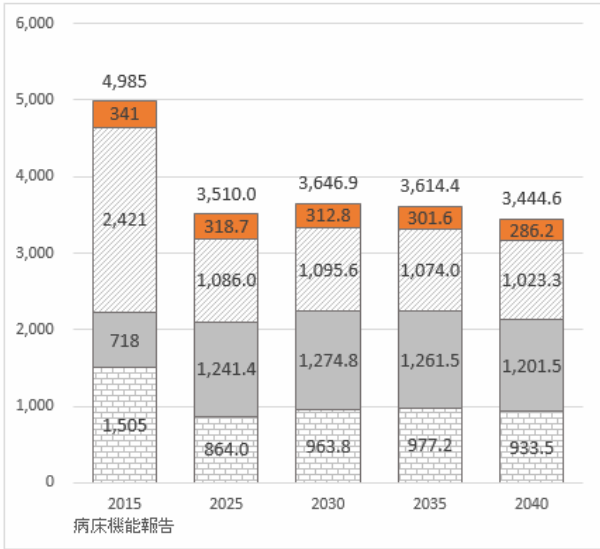
第 4 章 将来の必要病床数

【図】各構想区域の必要病床数の推移（グラフ）

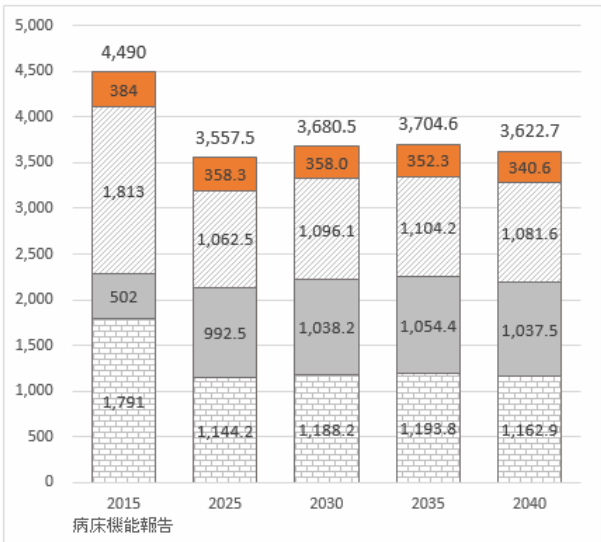
長崎区域



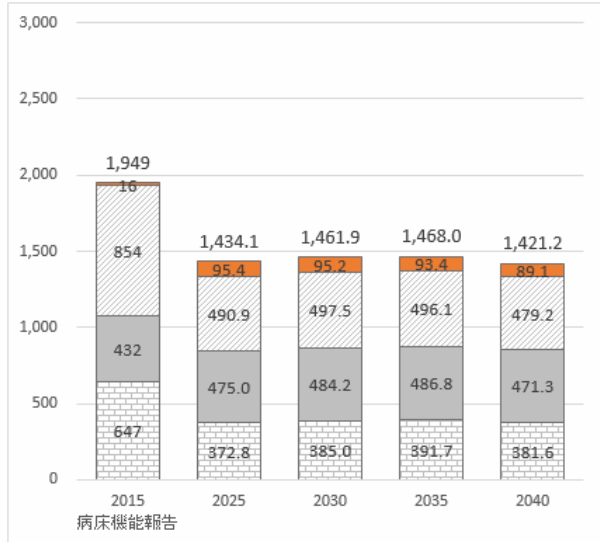
佐世保県北区域



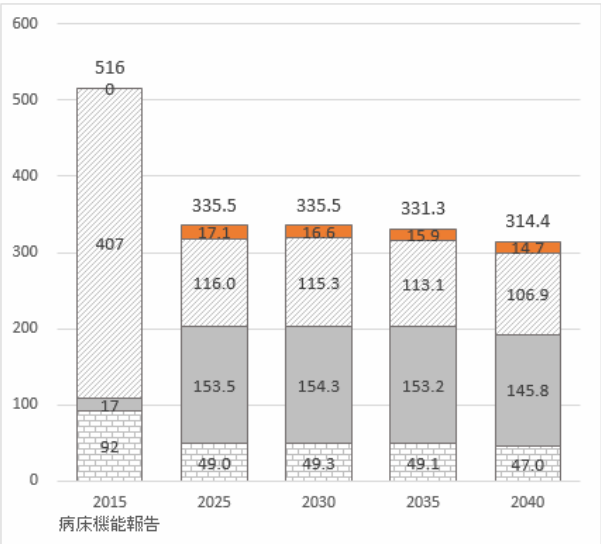
県央区域



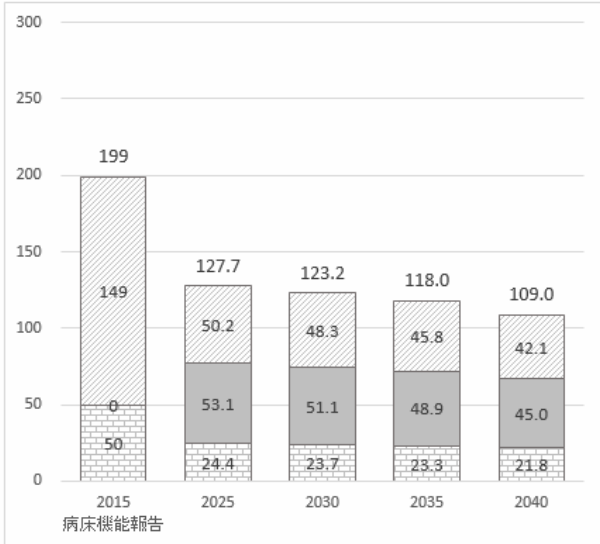
県南区域



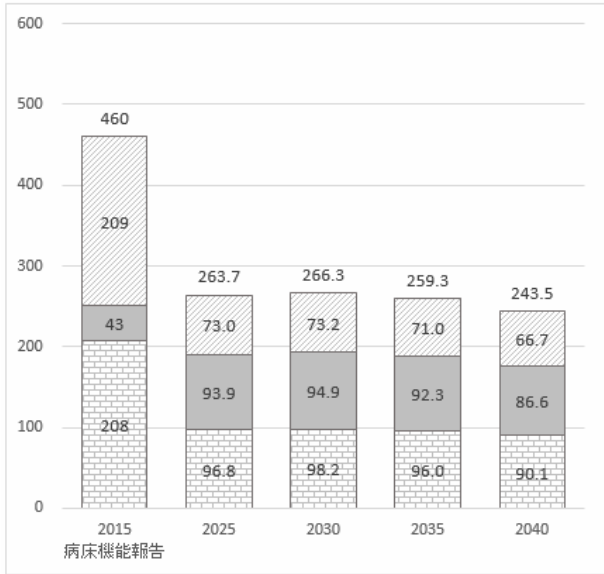
五島区域



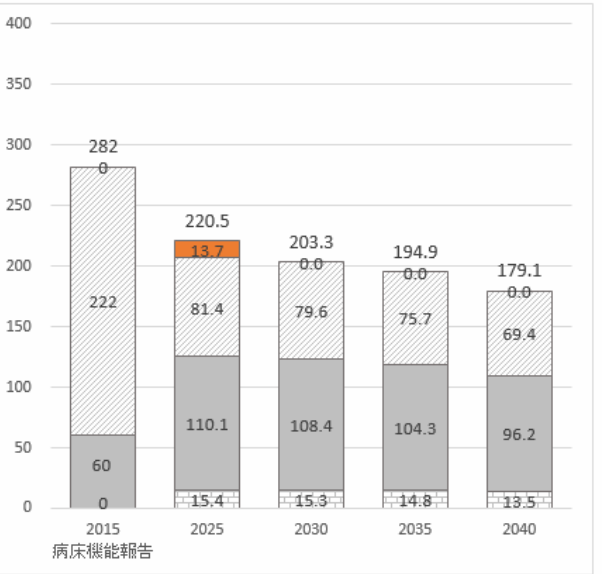
上五島区域



壱岐区域



対馬区域



【表】各構想区域の必要病床数の推移（表）

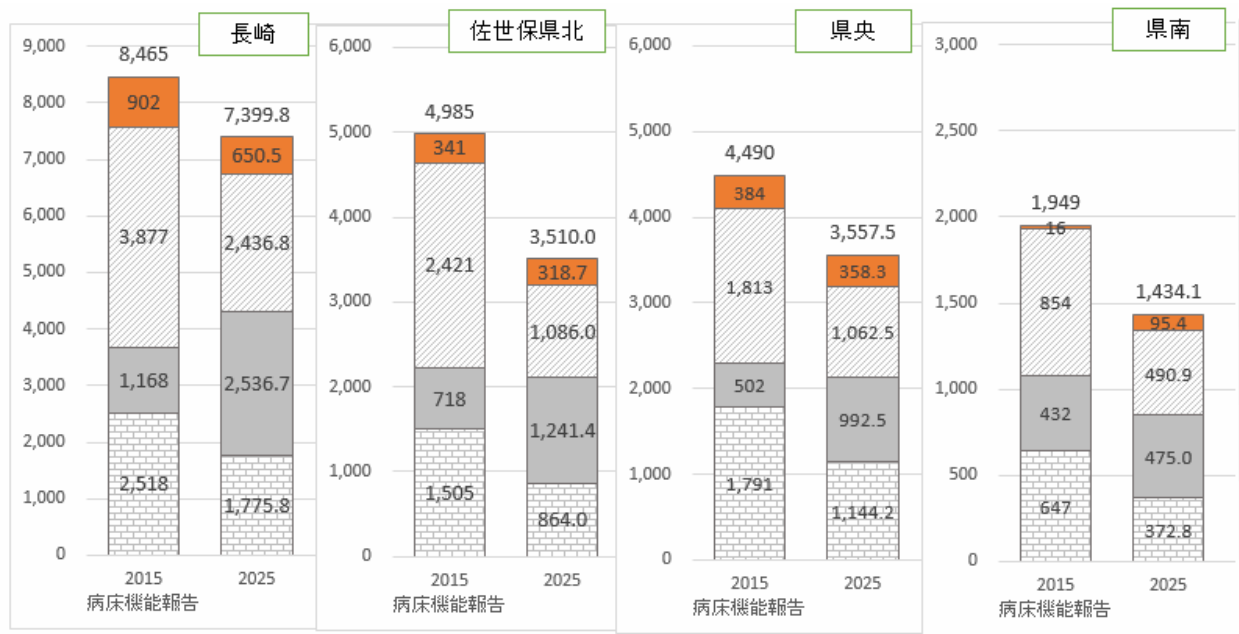
医療機能	長崎 ※(特例適用)				佐世保県北 ※(特例適用)			
	2025	2030	2035	2040	2025	2030	2035	2040
高度急性期	650.5	649.8	637.6	613.7	318.7	312.8	301.6	286.2
急性期	2,436.8	2,511.2	2,513.2	2,439.3	1,086.0	1,095.6	1,074.0	1,023.3
回復期	2,536.7	2,661.3	2,693.8	2,622.5	1,241.4	1,274.8	1,261.5	1,201.5
慢性期	1,775.8	2,126.5	2,200.7	2,157.3	864.0	963.8	977.2	933.5
小計	7,399.8	7,948.8	8,045.3	7,832.9	3,510.0	3,646.9	3,614.4	3,444.6
医療機能	県央				県南 ※(特例適用)			
	2025	2030	2035	2040	2025	2030	2035	2040
高度急性期	358.3	358.0	352.3	340.6	95.4	95.2	93.4	89.1
急性期	1,062.5	1,096.1	1,104.2	1,081.6	490.9	497.5	496.1	479.2
回復期	992.5	1,038.2	1,054.4	1,037.5	475.0	484.2	486.8	471.3
慢性期	1,144.2	1,188.2	1,193.8	1,162.9	372.8	385.0	391.7	381.6
小計	3,557.5	3,680.5	3,704.6	3,622.7	1,434.1	1,461.9	1,468.0	1,421.2
医療機能	五島				上五島			
	2025	2030	2035	2040	2025	2030	2035	2040
高度急性期	17.1	16.6	15.9	14.7	*	*	*	*
急性期	116.0	115.3	113.1	106.9	50.2	48.3	45.8	42.1
回復期	153.5	154.3	153.2	145.8	53.1	51.1	48.9	45.0
慢性期	49.0	49.3	49.1	47.0	24.4	23.7	23.3	21.8
小計	335.5	335.5	331.3	314.4	127.7	123.2	118.0	109.0
医療機能	壱岐 ※(特例適用)				対馬			
	2025	2030	2035	2040	2025	2030	2035	2040
高度急性期	*	*	*	*	13.7	*	*	*
急性期	73.0	73.2	71.0	66.7	81.4	79.6	75.7	69.4
回復期	93.9	94.9	92.3	86.6	110.1	108.4	104.3	96.2
慢性期	96.8	98.2	96.0	90.1	15.4	15.3	14.8	13.5
小計	263.7	266.3	259.3	243.5	220.5	203.3	194.9	179.1

「＊」は医療需要が 10 人/日に満たないため、レセプトデータを利用する推計方法の規定上表示していない。

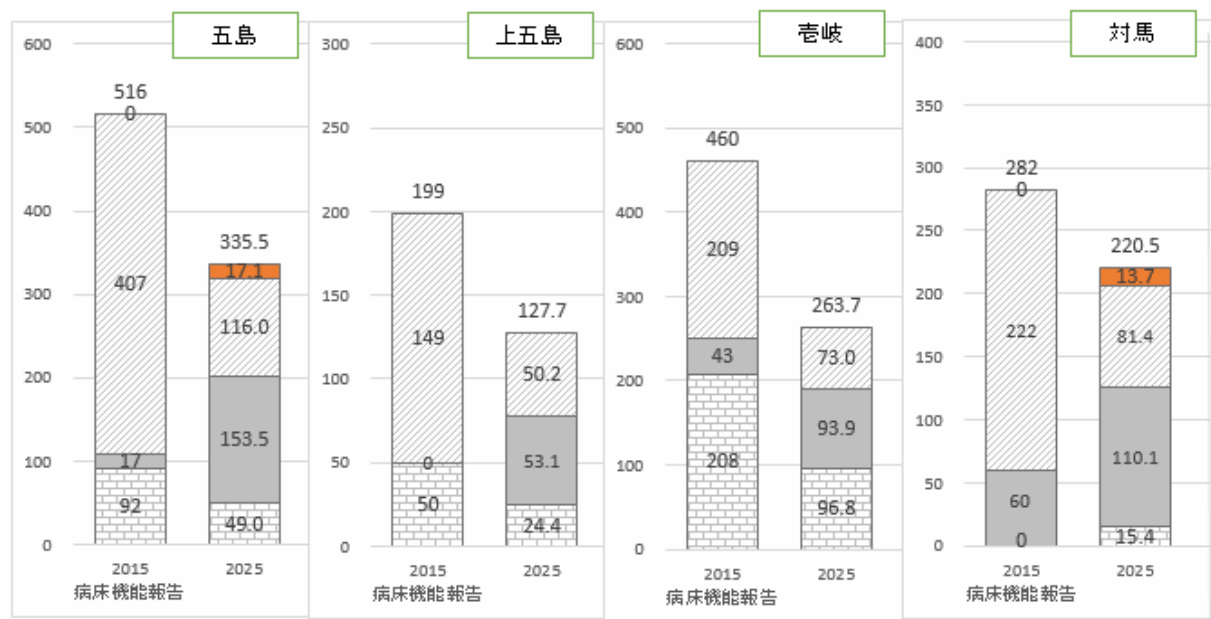
(2) 2025 年の必要病床数

2015 年（平成 27 年）の病床機能報告の結果と 2025 年の必要病床数（医療機関所在地）の推計結果を比較すると、本県は全ての構想区域において、急性期病床が多く、回復期病床が不足しています。また、対馬区域を除く構想区域において慢性期病床が多くなっています。

【図】本土の構想区域の必要病床数（病床機能報告との比較）



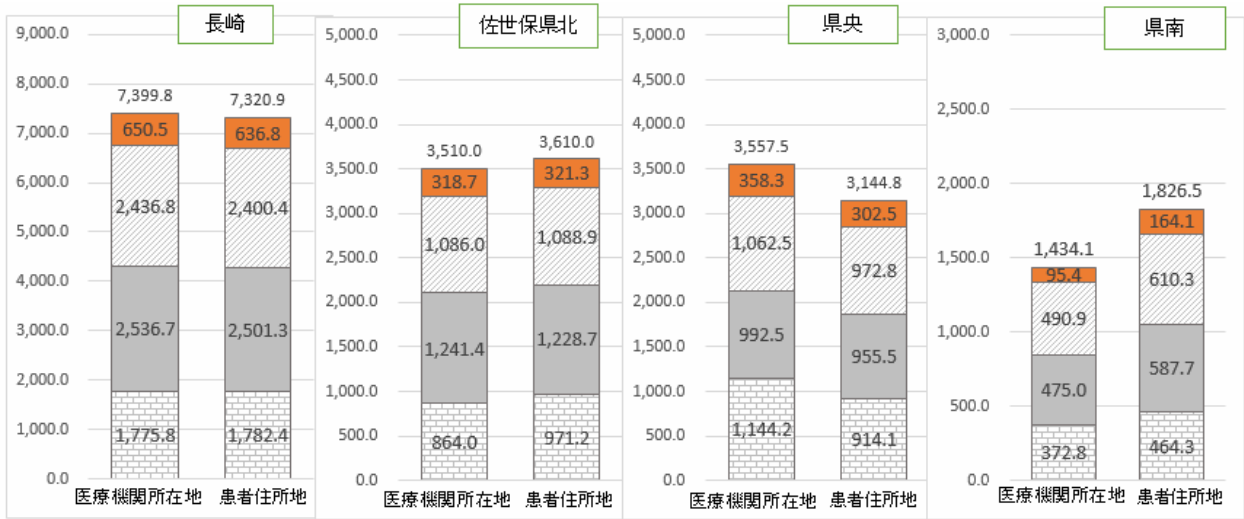
【図】離島の構想区域の必要病床数（病床機能報告との比較）



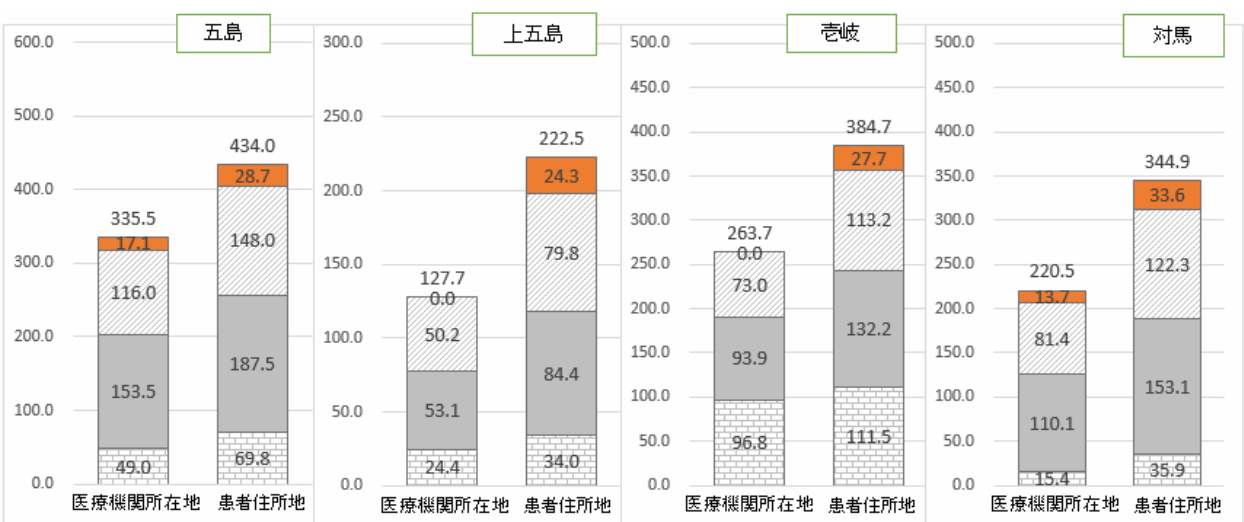
第 4 章 将来の必要病床数

2025 年の必要病床数を医療機関所在地と患者住所地で比較すると、県央区域では医療機関所在地の病床が、県南区域では患者住所地の病床数が多くなっています。また、離島の構想区域では、すべて患者住所地の病床数が多くなっています。

【図】本土の構想区域の必要病床数（医療機関所在地と患者住所地の比較）



【図】離島の構想区域の必要病床数（医療機関所在地と患者住所地の比較）



第4章 将来の必要病床数

【表】2025 年の必要病床数

単位: 床				
構想区域	医療機能	医療機関所在地 (A)	患者住所地 (B)	A-B
長崎 ※特例適用	高度急性期	650.5	636.8	13.7
	急性期	2,436.8	2,400.4	36.4
	回復期	2,536.7	2,501.3	35.4
	慢性期	1,775.8	1,782.4	-6.6
	小計	7,399.8	7,320.9	78.9
佐世保 県北 ※特例適用	高度急性期	318.7	321.3	-2.6
	急性期	1,086.0	1,088.9	-2.9
	回復期	1,241.4	1,228.7	12.6
	慢性期	864.0	971.2	-107.2
	小計	3,510.0	3,610.0	-100.1
県央	高度急性期	358.3	302.5	55.8
	急性期	1,062.5	972.8	89.7
	回復期	992.5	955.5	37.0
	慢性期	1,144.2	914.1	230.2
	小計	3,557.5	3,144.8	412.6
県南 ※特例適用	高度急性期	95.4	164.1	-68.7
	急性期	490.9	610.3	-119.4
	回復期	475.0	587.7	-112.7
	慢性期	372.8	464.3	-91.6
	小計	1,434.1	1,826.5	-392.4
五島	高度急性期	17.1	28.7	-11.6
	急性期	116.0	148.0	-32.1
	回復期	153.5	187.5	-34.0
	慢性期	49.0	69.8	-20.8
	小計	335.5	434.0	-98.5
上五島	高度急性期	*	24.3	-
	急性期	50.2	79.8	-29.6
	回復期	53.1	84.4	-31.3
	慢性期	24.4	34.0	-9.5
	小計	127.7	222.5	-94.8
壱岐 ※特例適用	高度急性期	*	27.7	-
	急性期	73.0	113.2	-40.2
	回復期	93.9	132.2	-38.3
	慢性期	96.8	111.5	-14.7
	小計	263.7	384.7	-121.0
対馬	高度急性期	13.7	33.6	-19.9
	急性期	81.4	122.3	-41.0
	回復期	110.1	153.1	-43.0
	慢性期	15.4	35.9	-20.5
	小計	220.5	344.9	-124.4
県全体	高度急性期	1,453.6	1,539.0	-85.4
	急性期	5,396.7	5,535.7	-139.0
	回復期	5,656.1	5,830.4	-174.3
	慢性期	4,342.4	4,383.2	-40.8
	総計	16,848.7	17,288.2	-439.5

「*」は医療需要が 10 人/日に満たないため、レセプトデータを利用する推計方法の規定上表示していない。